

お正月遊びで子どもの能力を上げよう！

今年もあと少しになり、季節が移り行くのは本当に早いですね。

クリスマスが過ぎると、お正月まではあっという間！

お家でもたくさんの方が集まってにぎやかになる機会が増えますね。

最近では家の中でゲームをする子どもが増えていますが、昔からのお正月遊びは子どもの脳に影響を与え、能力を伸ばす効果が期待出来ます。

「かるた」はひらがな等の文字を覚える事が出来、読み手の言葉を集中して聴く力も育てます。

また「百人一首」の取り札は和歌の下の句しか書かれてなくて、上の句から読まれるため、和歌を全て覚えていることで早く札を取る事が出来るので記憶のトレーニングに適しています。

少し高度ではありますが、小学生くらいなら出来るかもしれませんね。

サイコロを振って出た目の数だけコマを進める「すごろく」。

シンプルなルールの中に、子どもの知育につながる要素がたくさん入っています。

たとえば、サイコロの出た目を読んで、その数を進むというルールですが、数の概念が身に付きやすいと言われています。

サイコロの出た目を指して「何マス進めるかな？」と質問して、子どもに答えてもらってからコマを進めると良いですね。

また止まったマス目に「1回休み」「3マス戻る」などと指示が書かれている「すごろく」は文字を読むトレーニングにもなります。

マスに指示が書いてあれば、先取りして呼んでしまわずに、子どもが読み終えてその内容を理解出来るまで待ちましょう。

子どもが初めて「すごろく」で遊ぶ場合は、マスが少なく短時間で終われるシンプルなものが良いですね。

基本的なルールが理解出来て、物足りなさそうな様子であれば、少しずつ難易度を上げていきましょう。

ストーリー性のあるものや身近なアイテムがモチーフになっている「すごろく」などバラエティ豊かに種類があります。勝ち負けを競うだけではなく会話が生まれ、コミュニケーションが活発になるメリットも期待出来ますよ。